【都野神社（与板八幡宮）「焼組香奉納額」釈文】

奉納

資料３-2

　きふはきさらぎ初卯、洛南

　男山神楽の御神事、当社之

　御一体分身の御神なれば、

　焚組の供香を催し、聊

　神慮を仰ぎたてまつる事、

　　　　　　　　　志加里、

　　　焼組香之記

立舞袖　　　　　　　内山充美

春日野　　　　　　　江口朋光

わか草　　　　　　　三輪弘高

みゆき　　　　　　　山田重記

玉だれ　　　　　　　江口充興

いにしへ　　　　　　三輪長舊

松かぜ　　　　　　　奥山正秀

遠　里　　　　　　　内藤定賢

かすむ月　　　　　　　　朋光

志のぶ　　　　　　　　　充美

匂ひの袖　　　　　　　　弘高

我　宿　　　　　　　　　重記

芦　垣　　　　　　　　　長舊

男　鹿　　　　　　　　　充興

明ぼの　　　　　　　　　正秀

旅ごろも　　　　　　斎藤吉峰

鶴の齢　　　　　　　　　定賢

　仲春初三　　　於社頭開香莚、

卯

　　　　　　　　香許内藤定賢

　　　一炷焼供香

追加

御祓川　　　　　　　江原利正

松　嵐　　　　　　　河西久隆

浅みどり　　　　　　大澤幸孝

茂　山　　　　　　　田母神成鄰

蝉の小河　　　　　 　長明善康

哭　梅　　　　　東武　守随　信

呉　竹　　　　　洛陽　空花恵南①

天の戸　　　　　浪花　杬全成政

百　華　　　　 　　仝　大口樵翁②

人皇一百五代之御宇御香所

　　西三條前内府

　　　　　逍遥院殿實隆公御家之末流

　　　　　　　　　　浪花隠士大枝流芳子門人③

　　　　　　　　願主　江口氏朋光④

宝暦九　 年二月

花押

卯

己

干時

（注）

①空花恵南　　またの名を、空花庵忍鎧、僧侶・香道家、京都の人、【生没年】寛文十（1670）年～宝暦二（1752）年、香道（米川流）で著名。恵南流の祖。

②大口樵翁　　またの名を大口含翠、石州流の茶道を学び大口流を創した茶道家・三条西家の香道（御家流）を学んだ香道家、大阪の人、【生没年】元禄二（1689）年～明和元（1764）年、大枝流芳の師でもある。

③大枝流芳　　香道家、大阪の人【生没年】生年不

　　　　　　詳、没年:寛延二（1749）年～寛延四（1751）年の間と推定されている。大口樵翁に香道を学び、御家流を基盤に、蜂谷流と米川流を参考にして大枝流を創始した。

④江口朋光　　与板備前屋江口の分家、東備前屋の当主で、同家の過去帳によると、本名「弥兵衛」、安政五（1858）年没、茶香の達人と伝わる。（『与板町史こぼれ話』による）大枝流芳の門人

**関連年表**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **西暦** | **年号** | **できごと** |
| 1749 | 寛延2 | 寛延2年～寛延４年の間に大枝流芳　没 |
| 1750 | 寛延3 |
| 1751 | 寛延4  宝暦1 |
| 1752 | 宝暦2 | 空華恵南　没 |
| 1753 | 宝暦3 |  |
| 1754 | 宝暦4 |  |
| 1755 | 宝暦5 |  |
| 1756 | 宝暦6 |  |
| 1757 | 宝暦7 |  |
| 1758 | 宝暦8 |  |
| 1759 | 宝暦9 | 与板八幡宮にて供香が催される |
|  |  |  |
| 1858 | 安政5 | 江口朋光　没 |
|  |  |  |

**◎年表から見える矛盾点**

年表より、奉納額の記載内容に以下のとおり矛

盾点がある。

①・香莚に参加した空花恵南は、香莚の七年前に没しており、参加することは不可能。

②・香莚に参加した江口朋光は、安政五年の没であり、供香の開催年と矛盾する（香莚の99年後の没）

また、1750年前後に没した大枝流芳の門人であることとも矛盾する。

**◎釈文の文字の変更について**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　①=哭（笑）

①

　　②=百（古）②

　　　（）内は旧釈